

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ う思わない ■ からない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に取り組んでいると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1 肯定的な評価が、保護者93%、児童90%、教職員96%で、高い数値であった。行事での取組や道徳教育の推進などを中心に、感動・感謝の心、いのちを大切にすることを育んだり、保健指導や体力づくりなど繰り返しの指導で健康に気をつけた生活に繋がった結果であると考えられる。ただ、「わからない」の回答が児童も保護者もあることから、児童自身で実感できる取組や保護者への啓発も継続していくことが大切である。 2 肯定的な評価が、保護者89%、児童80%、教職員91%であった。校内研修において、児童が主体となる授業づくりの研究を進めていることにより、授業力向上に繋がっていると考えられる。「わからない」の回答が児童も保護者もあることから、児童が問いをもち、自ら学ぶ力を育む授業をさらに工夫し、授業実践や児童が学びとる様子を保護者に啓発していくことも大切であると考えられる。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		3 肯定的な評価が、児童は69%、保護者は93%、教職員は91%であった。保護者・教職員の高評価は、児童が主体的に学校や地域のために活動する機会をつくり、家庭や地域にホームページ等で発信できているからだと考えられる。取組を継続していき、より多くの児童が意欲的に活動し、達成感を感じられるよう、一人一人のよさを生かせる役割分担や定期的な振り返りを行っていきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	4 個別最適な学びで、肯定的な評価が、保護者は78%、児童は80%、教職員は91%とやや数値の開きがある。更に「分からない」が保護者は12%、児童は7%、教職員は2.3%である。個別最適な学びの手立てを学校で共有し、その内容を知らせていくことでより効果的な指導につながるものと考えられる。 5 協働的な学びで、肯定的な評価が、保護者は90%、児童は84%、教職員は91%と差はほぼない。授業の中で教師が意図的に仕組んでいることが保護者や児童に理解されている。この理解が今後の活動の中で有効に働いていくものと考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	6 肯定的な評価が、保護者82%、児童84%、教職員95%であった。校内支援委員会など、教職員全体で児童の実態を周知できる場を有効に使うことで共通理解が進み、学校全体で児童にとって最適な支援を考えることができた。一方、児童や保護者が安心して活動していける場を選択しやすくなるように、年度初めの教育相談等で情報提供を行うなど、行えるサポートをより広く知ってもらう工夫が必要と考える。 7 肯定的な評価が、保護者82%、児童81%、教職員88%であった。今後も特別支援学級の児童においては集団生活の経験を広げ社会性を育むこと、通常の学級の児童においては多様性を認め、互いを理解することにつながるように、児童の実態に応じた適切な交流及び共同学習の取組を進める。また、適切なタイミングで指導及び支援を行うことが大切であると考えられる。

(3) 最適な教育環境の整備

8 安全・安心な園づくりの推進

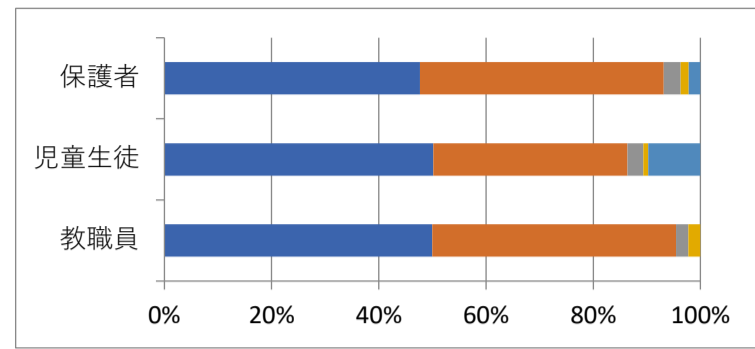
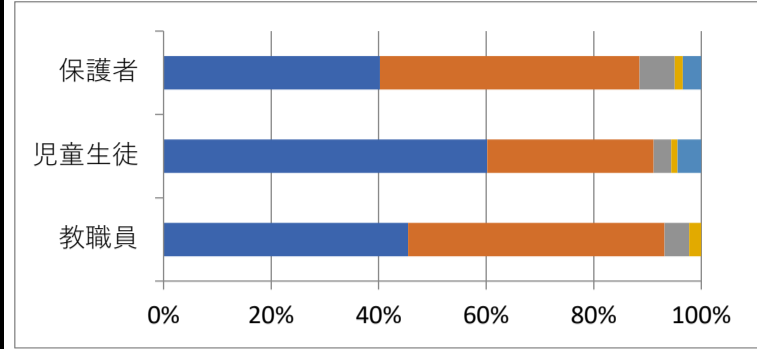
9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

8 肯定的な評価が、保護者88%、児童91%、教職員93%と昨年度同様高い数値だった。これは、教職員による安全点検と迅速な対応、避難訓練や日々の交通安全指導など安全教育の推進による結果と考える。今後も教職員が危機管理能力を高め、安全な環境整備の徹底に努めるとともに、児童自身の安全への意識向上を目指してより充実した安全教育を行っていく必要がある。

9 肯定的な評価が、保護者88%、教職員90%という結果であった。これは日頃から連携を心がけて取り組んでいることが評価されたと捉えている。「わからない」と答えている児童が10%と多く、交流はしているものの実感がない可能性があるため、振り返り等を通して達成感を味わわせ、次の活動につなげたい。

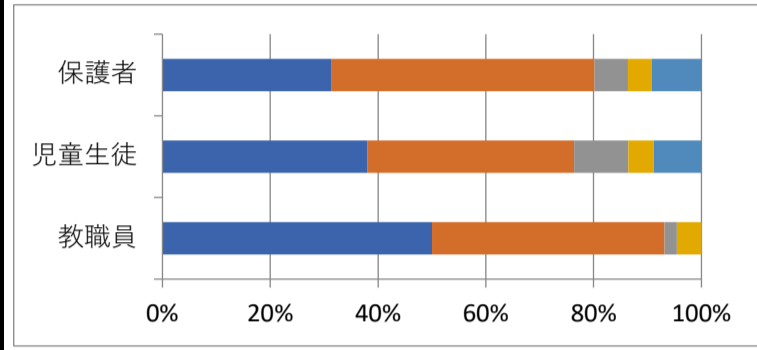


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

10 肯定的な評価が、保護者、児童が約80%程度、教職員が90%を超えている。「わからない」の回答が教職員が0%に対し保護者、児童で10%程度となっている。これらのことから家庭と学校での意識の差が大きく、日常の学校の取組が家庭に伝わりきれていないことが考えられる。保護者や児童の求めていることを把握し、学校での取組の家庭への周知・理解を進めていく工夫と、自分の意見が活かされている実感を児童がもてるような工夫が必要と考える。



独自項目

独自項目1 教育方針・目標の理解

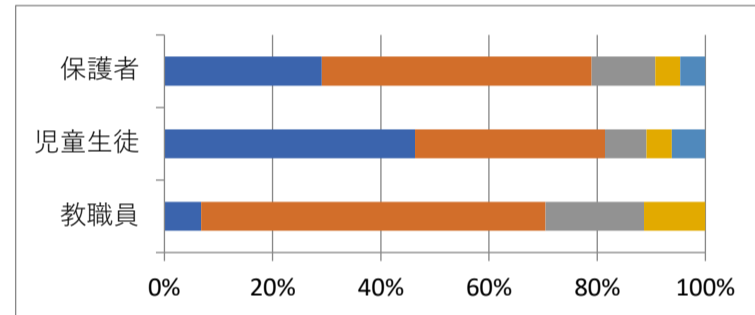
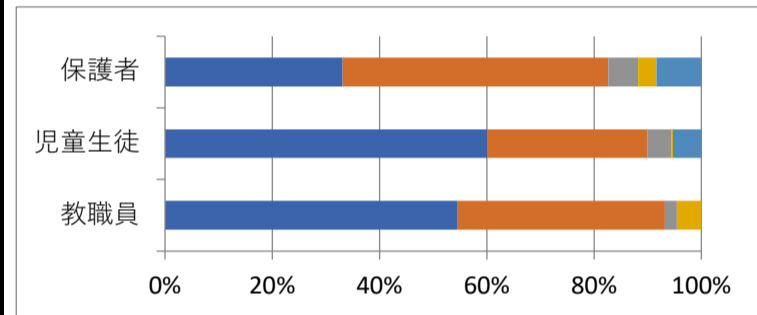
独自項目2 笑顔であいさつする子ども

学校は、学校の教育方針や教育目標などをわかりやすく示していると思いますか。

子どもは、笑顔であいさつができていると思いますか。

独自項目1 肯定的な評価が、保護者83%、児童91%、職員94%であった。昨年よりも保護者の肯定的な評価が若干減っている。今後も、学年や学級通信、学校便り等の発行を通して周知徹底していくことで、関心の低い家庭にも理解をしてもらえるように努力していきたい。

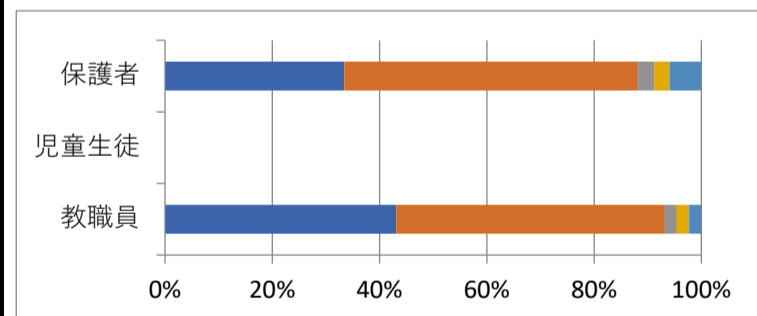
独自項目2 肯定的な評価が、保護者79%、児童81%、教職員70%であった。保護者と教職員の回答が80%を下回っており、十分にあいさつができているとはいえないことが分かる。教職員の率先したあいさつ、「帯っ子のきまり」の周知徹底、委員会活動やボランティア活動を通して、あいさつの心地よさや必要性を実感し、児童自らが率先してあいさつをしていく習慣を身につけるようにしていきたい。



独自項目3 徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

独自項目3 肯定的な評価が、保護者88%で昨年比7%減、教職員93%で昨年比1%増であった。本年度も道徳公開授業や一人一鉢、あいさつ運動等に取り組む中で、保護者の「わからない」の回答が増えていたので、取組へのご理解ご協力につながる周知の仕方を工夫する必要があると考える。また、教職員においても「そう思わない」「わからない」の割合が増えていたので、本年度の取組内容を再検討し、共通理解したうえで指導にあたっていきたい。



来年度の具体的な取組について

- (1) 「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」については、学校経営テーマ「愛(あい)のある子どもが主役の学校づくり」にも示しているように、児童の主体性を大切にしながら教育活動を展開していく。心と体を一体として捉え、教科横断的な視点で育成を図ることで、一人一人の児童が自ら成長を実感できるようにする。
- (2) 「こども一人一人を尊重した教育の推進」については、一人一人の児童を尊重するために、きずなアンケートの結果や日頃の児童とのコミュニケーションから、困り感や悩みを早期に発見・解決し、児童のよさを認め伸ばすことで自尊感情を高めていく。また、特別支援教育についてもインクルーシブ教育の視点を持ち、校内支援委員会を中心に、個に応じた支援を検討し対応する。保護者説明会、学級懇談会等とおして家庭や地域へ積極的に啓発していく。
- (3) 「最適な教育環境の整備」については、児童に安全に関するルール順守の指導を徹底し、避難訓練等を通して「自分の命は自分で守る」という主体性のある安全教育を行っていく。また、未然に事故を防ぐという観点から、毎月の安全点検をより慎重に行い、改善すべき点については迅速に対応していく。
- 「学校教育方針・目標の理解」については、学級・学校だより、諸団体会合などあらゆる機会をとおして情報発信を行う。地域との連携のために「すぐー」を活用し、学校だよりの周知や授業参観への呼びかけを行い、開かれた学校づくりに努める。
- 「笑顔であいさつする子ども」については個人差や時期によっても違いがあるので、特別活動を中心に意義付けや振り返りを継続的に行っていく。

小中学校関係者評価

- 学校が取り組んでいることを保護者や児童に理解してもらうことは難しいと感じた。最終的には、児童が喜んで学校に行くことが保護者の学校教育への信頼・理解につながると思う。
- 学校に来るたびに「いつもきれいにされているな。」と感心している。児童と職員が一生懸命に掃除をしているからこそだと思う。
- 学校の近くを通ると、大きな声で元気よくあいさつしてくれる。
- 地域活動に、学校が積極的に関わっていただき、有難い。今後も地域と学校が一体となったまちづくりが推進され、帯山校区が発展してほしい。
- 校則見直し委員会での発言を見て、自分の考えをまとめて発表する力が育てられていると感じた。
- 音楽発表会では、一生懸命な姿が見られ、クラスや学年で協力し合い成功させようという気持ちを感じられてよかった。
- 笑顔で挨拶してくれる児童が多くいる。こちらからあいさつをすると、元気よくあいさつしてくれる児童も多い。
- 先生方が一生懸命に取り組まれている姿、様子は伝わっている。今後とも地域と一緒に子ども達の支援に微力ですが協力していきたい。